

森（自然）と親しむ営み

森林教室の紹介 -

1 はじめに

当センターの森林学習展示館は一般の方が森林について研修したり、自然の中で体験したりする機会と場を提供する施設です。ここには展示館や研修室・木工室といった教室のほかに、屋外には自然体験活動のためのキャンプ場等の施設も整っています。



写真-1 落ち葉と戯れる少女
やきいもと落ち葉遊びー

また、施設だけでなく子どもから大人までたくさんの方が森林や林業について学んだり、自然の中で体験したりできる講座や教室も開催しています。そのひとつが、親子やご夫婦で森に親しんでもらうために行っている森林教室です。平成 20 年度は原則として隔週の土曜日に計画し、年間通して 30 回実施することができました。そこで、今までに実施した教室の中から 4 つを選び、具体的な内容や参加者の様子などについて紹介します。

2 春の森林観察（四季の森林観察のひとつ）

これは各季節にシリーズで実施する森林観察の



写真-2 母と子でおしばつくり

「春版」で、今年度は 5 月 3 日に開催しました。

遅咲きのサクラやヤマブキなどの花が咲き乱れ、体全体に春の息

吹が伝わってくる中で、木々の花や芽を観察しま

した。その後、教室にもどり電子レンジを使い、採集してきた草花を「おしば」にして森のはがきを作りをしました。きれいに出来上がったはがきを手にして、あるおじいさんは「大阪の孫に届くのが楽しみです。」と顔をほころばせながら話してくれました。

その後、指導部職員による大きなアカマツの伐倒作業を見学しました。木が倒される様子を見て

いたひとりの子どもが、目にうっすらと涙を浮かべて「切られる木がかわいそう。」と、つぶやいた小さな声がとても印象的でした。また、



写真-3 伐倒と見学の様子

また、玉切りした断面の年輪を数えてみると、幹の元と先ではその数が違うことを初めて知り、目か



写真-4 年輪の観察

らうろこが落ちたというご夫妻もいました。こうして、参加した皆さんは 1 本のアカマツから木の命についてたくさんのことを学ぶことができました。

最後に広葉樹が密生した林で、除伐を行いました。自分の手でのこぎりを握り、立木を切るのは初めてという子どもたちにとって除伐作業は楽しかったようで、汗をかきながら次から次へと倒して歓声を上げていました。

3 隠れ家作りとロープワーク

太陽がギラギラと照りつける 7 月 5 日、サワラやアカマツが茂る森で、隠れ家を作りました。最初に木にロープを結ぶ方法やロープで木と木を固定するやり方（ロープワーク）を練習してから、隠れ家建設を始めました。

はじめは自分で伐倒した丸太などを立木に結び

付け、柱や床を作りました。のこぎりで木を切ったり運んだりすることは力のいる仕事ですが、家族で力を合わせてがんばりました。お父さんと一緒に仕事をすることができて、子どもたちやお母



写真-5 たくさんの家族の協力により完成した別さんはとてもうれしそうでした。

骨格が出来上がると、階段を取り付けたりブランコや滑り台などを増設したりして、個性ある別荘が完成しました。この教室に参加された皆さんは、自然の中で活動することの快感だけでなく、家族で力を合わせて仕事をする楽しさを満喫されたのではないのでしょうか。また、力強く働く父親の姿に改めてたくましさを感じたお母さんや子どもさんもおられたことでしょう。

他にも森の中での体験活動として「飯ごう炊さん」「草木染め」「くんせい作り」を実施しました。

4 木工教室「キッチンワゴン」の製作

森林教室の中で特に人気があるのが木工教室です。これは当センターで生産したスギ材やサワラ材などを使って、木工に挑戦する講座です。12月と1月は「キッチンワゴン」の製作でした。部材数が多い上、技術的にもやや難しいところがあり、夕方5時頃完成した方もいました。のみを使って溝をほったり、インパクトドライバーを使ってビスを打ち込んだりといった作業は初めてという方は、ドキドキ・びくびくの連続で真剣そのものでした。本題材は難しいことが多いので子どもたちは制作に参加できないのではと心配しましたが、板の切断や紙やすりで磨くといった仕事を受け持ち一生懸命取り組んでいました。最後に4本の足にキャスターを取り付け作品が完成すると、参加された皆さんは自分で作ったワゴンを押ししたり眺めたりして満足そうな笑みを浮かべていまし

た。



写真-6 家族で力をあわせて

木工教室ではこの他に「フラワーボックス」「コーナーラック」なども製作しました。

5 シイタケの植菌（種駒打ち）

コナラの原木できのこを育てる経験を通して、命の大切さやその連続性に気づいてもらう目的で、春にはシイタケの植菌（種駒打ち）を実施しました。自分の手で穴を開け種駒を打ちこんだ原木は、家に持ち帰って水やりなどの世話をしてもらっています。ときどき「大きなシイタケが出てきて、家族みんなで美味し



写真-7 「娘よがんばれ」

くいただきました。」と、うれしい便りが届くこともあります。

おわりに

最後に、森林教室に参加された皆さんの印象的な姿を紹介します。ほとんど休まずに参加して、親子で楽しそうに活動しているM親子。野鳥観察に参加したことをきっかけに、ムササビの研究へと発展し、現在も継続している中学生のH君。山火事を待つマツボックリの話から、固く閉じたバンクスマツの球果をストーブで暖め、開いた鱗片の間から種が出ることを自分で確かめたK翁。

このように、参加された皆さんが森や自然の中へ足を踏み入れてくれるようになったのは、森林教室がきっかけであったとすれば大変うれしいことです。

森林学習展示館 大原均